

## はじめに

2004/2005年度パブリック・サービス研究分科会は、「専門職としての図書館員養成のために、図書館全般の知識と技能を習得し、そしてそのことが利用者サービスに反映するような、感性豊かな図書館員の育成を目指す」ことを目標として発足した。「パブリック・サービス研究分科会の講義内容に興味をもった方。司書資格はあるが図書館業務に磨きをかけたい方。司書資格がないのに図書館に配属されて困っている方。学外の職員とのネットワークを築きたい方」という応募条件の下、発会当初は24名(20大学)のメンバーが集まった。所属する大学図書館の規模・性格、各人の年齢・キャリアは多様であった。

現在、大学を取り巻く環境は大きく変わっている。2007年には大学全入時代が到来する。この先は、社会的評価に耐えうる大学が生き残る時代となった。大学の教育・研究活動の質が問われる時代になった。それぞれの大学は存在意義をかけて改革に取り組んでいる。図書館も例外ではない。

図書館は大学の本質であり核である。それは思考および知識の蓄積された叡智および未来の新しい発見の可能性からなる永続的な大学の活動の一部を担ってきたからである。図書館の将来は、大学の中にあってかけがえのない存在であり続けること、存在意義を大学内に浸透させていくことによるのみ有望である。図書館員はそのようなリーダーシップを発揮していかなければならない。その意味では、一人ひとりのメンバーが図書館員として抱える個別・具体的な問題意識は異なっても本質的な部分での問題意識は共通であった。

当分科会では、図書館界の最新動向や図書館員としての専門性を高めるための基本的な情報より広く大学職員としてあり方を講義で学び続けてきた。その中で、高まってきた問題意識を共有し、グループ研究活動に発展させてきた。

グループ研究は、経営や組織運営の主要な要素である、「ヒト」、「モノ」、「カネ」の3要素について、最も興味あるものをメンバーが選択し、3つのグループに分かれて研究活動を開始した。グループ内での討議や先行研究調査、アンケート調査等をへて、より問題意識は深まり、研究テーマも収斂されていった。

具体的には、「ヒト」グループは、「図書館スタッフ研修プログラムについて - 人材育成のあり方」について、「モノ」グループは『大学図書館における危機管理 - 「個人情報保護のためのチェックシート」の作成を中心に』、「カネ」グループは、「コンソーシアム研究」となった。本日の研究報告大会においては、上記の3つのグループ研究を発表する。パブリック・サービス研究分科会として、「ヒト」、「モノ」、「カネ」の組織の3要素について、総合的な形で、2年間の研究活動の成果を発表するものである。

最終的に、この研究活動および研究成果を研究論文集として刊行する予定である。